



新聞まさひこ通信

あけぼの曙

発行責任者
福岡県議会議員
新開昌彦

福岡市早良区曙 2-1-35

Vol.26 平成 16 年 8 月 15 日発行

議会報告



福岡県議会は、6月4日開会され、県立病院の民営化に伴う条例案、産業廃棄物税の導入に伴う条例案などを審議し、31件の条例案が可決成立しました。

約140億円の累積赤字を抱える県立5病院のうち、太宰府(太宰府市)、朝倉(甘木市)、遠賀(岡垣町)の3病院が、来春先行して民営化されます。条例には病院職員の退職手当の優遇措置や移譲先への財政支援などが盛り込まれました。

この他、九州7県が一斉導入を決めた産廃税条例案や久留米市と田主丸、北野、城島、三瀬4町の合併案が可決されました。

新開昌彦県議は、今議会で一般質問に立ちました。現場の利益を確保するための公共工事の問題点や、環境汚染の現地を視察しその問題点を知事に指摘し質問しました。

待望の「若年者しごとサポートセンター」が開設



若年者しごとサポートセンターを視察する新開県議ら

若者たちの就職を支援する福岡県の「若年者しごとサポートセンター」が7月1日、福岡市中央区天神の「エルガーラ」にオープンし、県内で「ジョブカフェ設置」の署名活動を展開した公明党青年局の大学生代表と新開昌彦県議らが記念式典に参加、開設を祝いました。

福岡県は、15～34歳の完全失業率が2003年平均で10.1%(全国7.5%)と高く、若年失業者の増加に歯止めをかけるため同センターを開設しました。

同センターにはキャリアコンサルタントが常駐し、マンツーマンで仕事に関する相談と就職プランの作成に当たるほか、就職や起業のため各種セミナーや研修、職場見学会などの仲介も行います。対象は15歳から34歳まで。北九州、筑豊、筑後の3地区

にも支所を開設します。「3年間で1万人の人材を育成して4万5000人の就職を実現する」(県労働政策課)予定です。オープン以来、わずか20日間で1822人が来所したほか、会員登録900人、相談受理件数765件、ホームページアクセス数65253件など好評を博しています。

食育が家庭を変える



高取保育園にて西園長と新開県議、石橋宗像市議

新開昌彦県議と石橋文恵宗像市議は、食育について高取保育園(福岡市早良区)を視察しました。

高取保育園は、早くから食育に取り組み、その実績は高く評価されています。新開県議らは、授業と給食の様子を見学後、西福岡園長らと給食を食べながら園の取組みを聞きました。

西園長は、食育を通して家庭に入ることができる。良好な親子関係をつくることできる。と豊富な実績を紹介しながら、今の教育の問題点と改善策を力説されました。

新開県議は、視察を終え、2月議会で知事、教育長に食育の大切さを訴え、積極的な取組みをするよう求めました。

知事、教育長は食育の実践について前向きに答弁しました。

第 20 回参議院選挙結果

公明 比例区 8 6 2 万票（参院選で過去最高）8 人当選、
3 選挙区完全勝利し、一議席増の 11 議席確保



公明党は、7 月 1 1 日行われた参議院選挙を終え、2 2 日衆参両院議員懇談会を開きました。神崎代表は、「党员・支持者の皆さまの献身的なご支援によるもの」と謝意を表明した上で、先の参院選で当選した選挙区の西田実仁（埼玉）、沢雄二（東京）、山下栄一（大阪）の 3 氏、比例区の浜四津敏子代表代行、弘友和夫、谷合正明、荒木清寛、風間昶、浮島智子、浜田昌良、鰐淵洋子の 8 氏の計 1 1 人を紹介。参院選について「自民、民主の二大政党制の“突風”と、与党に対する“逆風”が吹き荒れた厳しい選挙

戦の中、3 選挙区完勝と、参院選比例区で過去最高の 8 6 2 万票を獲得して 1 議席増を果たすことができた」と強調しました。

また、今後の戦いについて、「早ければ 2 年後に行われる衆院選、3 年後の参院選が天王山になる。政権をかけた自民、民主のし烈な戦いで、マスコミも一層、『自民対民主』の風を吹かせるだろう」と述べ、「その中で、公明党が本当に生き残れるのか、これからの政治を左右できる力を依然として持つことができるかどうか。全てはこの 2 年、3 年の戦いで決する」と力説し、当面の戦いとして、「来年は東京都議選、北九州、倉敷市議選など重要な選挙が控えている。決意新たに、一人ひとりが先頭に立ち、しっかりとした戦いを開始していこう」と訴えました。



ひろ友和夫氏 全国第二位で当選 996,188 票を獲得

ひろ友和夫氏は、比例区で全国第二位の 996,188 票を獲得し、参議院議員二期目の当選を果たすことができました。

ひろ友和夫氏は、公明党参議院副幹事長、農林水産部会長代理に就任しました。

ひろ友和夫氏は、猛暑の中を、又、風雨のときも、ひたすら勝利のために走りぬいていただいた支持者の皆様に衷心より感謝と御礼を申し上げ、このご恩に報いるためにも、庶民を徹して守り抜くという理念を根本に据えた政治を断じて貫き、あらゆる課題に果敢に取り組んでいくと決意を語っていました。

また、俳人としての一面を持つ、ひろ友和夫氏は、今回の戦いを振り返り俳句を詠みました。

冬も春も
忘れ 勝利の夏来る
和夫